

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	90 -	事業名	保健衛生普及事業	担当部課	福祉部保険医療課
------	------	-----	----------	------	----------

基本情報	総合計画	基本方針	-	会計	2	国民健康保険特別会計
		分野別項目	-	款	8	保健事業費
		施策の進め方	-	項	1	保健事業費
	まちづくり行程表	フラッグ	-	目	1	保健衛生普及費
		政策分類	-	大事業	2	保健衛生普及事業
	その他(関係法令、要綱等)		国民健康保険法			
事業開始の背景、経緯等		国保保険者として、健康寿命の延伸と医療費の適正化に向けて、保健事業を実施する。				

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 国保保険者として、健康寿命の延伸と医療費の適正化に向けて、保健事業を実施する。 ・糖尿病重症化予防事業 ・毎日コツコツ健康づくり教室 ・ポールウォーキングリーダー養成講座 ・医療費通知 ・後発医薬品差額通知				
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民(国保被保険者)				
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 健康づくりへの関心を高めて「行動変容」を促し、健康でイキイキとした暮らしの実現を目指す。				
	事業を構成する事務事業	① 保健衛生普及事業	改善・見直し	④		
		②		⑤		
		③		⑥		

コスト推移	項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	事業費(A)	千円	決算	予算		4,614	7,228	6,217
決算					4,216	6,598	3,765	
人件費(B)	千円	決算		10,686	7,688	3,958		
総コスト(A)+(B)	千円	決算		14,902	14,286	7,723		

成果推移	成果指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
	A 生活習慣の改善意欲がある人の割合	%	目標	59.0	60.0	61.0	62.0	62.0
			実績	58.7	58.1	60.6	59.8	
	B		目標					
			実績					
C		目標						
		実績						
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) A 保健事業の実施効果を見るために、生活習慣の改善意欲(健診時)がある人の割合を成果指標とする。 B C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 市民運営に向けて、健康教室に参加するだけでなく、プログラム運営の担い手となる人材の育成が必要。
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 毎日コツコツ健康づくり教室は、毎月定例化し、登録人数で100人を超え、1回あたりの参加者も60人となり、参加者の満足度も高い。また、ポールウォーキングリーダー養成講座参加者による自主的な教室運営も開始された。糖尿病教室参加者は6か月後の調査によると教室終了後も生活習慣の改善に取り組んでいた。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 参加者の体の状況に合わせたプログラム構成

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 保健事業として健康リスク、体の状況別にアプローチして、誰もが気軽に健康づくりに取り組みやすい環境を整える。そのことにより健康づくりへの関心を高めて行動変容を促し、健康でイキイキとした暮らしの実現を目指す。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 参加者それぞれが自分の体の状況にあった健康づくりの取組が行えるようになる

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		保健衛生普及事業										
番号	①	事務事業名	保健衛生普及事業		款	8	項	1	目	1	大事業	2	中事業	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		平成28年度			終了（予定）年度	—							

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	①血糖値の高い国保被保険者を対象にして、健康課題に合わせた糖尿病教室を実施 ②元気な高齢者を対象に、毎日コツコツ健康づくり教室（毎月定例）を実施 ③健康教室運営のサポートを担う人材を養成するため、ポールウォーキングリーダー養成講座を実施
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 教室への参加を通して、健康づくりへの関心を高め、生活習慣の改善につなげる。

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
事業費	千円	予算		4,614	7,228	6,217	6,428
		決算		4,216	6,598	3,765	
<事業費の主な内訳（当該事業年度）>							
① 保健事業アドバイザー報酬費						224	千円
② 講師料						52	千円
③							千円

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
地域における取組	箇所	目標	-	-	6	6	6
		実績	-	-	3	2	
参加登録数（健康づくり教室）	人	目標	-	-	-	150	150
		実績	-	-	-	121	
<備考：活動の概要（当該事業年度）>							
糖尿病教室 5回 29人参加 毎日コツコツ健康教室 11回（5～3月）参加登録数：102人 ポールウォーキングリーダー養成講座 2回 19人参加							

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

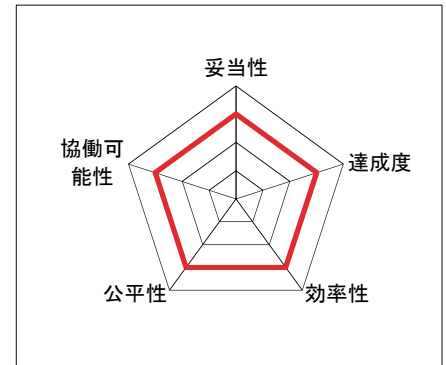
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
市民運営に向けて、健康教室に参加するだけでなく、プログラム運営の担い手となる人材の育成が必要。

## 5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
血糖値の高い人を対象にした「糖尿病重症化予防事業」の実施により、医療費の抑制に向けた独自の検査数値改善プログラム（運動・栄養）を実践する。 まちの健康教室の市民運営を進めるため、元気な高齢者を対象に、担い手となる人材の養成講座を実施する。
(何をどのような状態に改善したのか)
血糖値の高い国保被保険者を対象にして、健康課題に合わせた糖尿病教室を実施した。 健康教室運営のサポートを担う人材を養成するため、ポールウォーキングリーダー養成講座を実施し、参加者による教室運営が開始。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



### 【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)  
毎日コツコツ健康教室を毎月定例開催したことで、参加者の仲間づくり、継続的な健康づくりにつなげることができた。ポールウォーキングリーダー養成講座の参加者による自主的な教室運営が開始された。

### 【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)  
糖尿病教室を集団で行ったため、個別の対応ができなかった。健康教室が単一プログラムだったため、比較的体力のある参加者にとっては物足りなさがあつた。

## 7. 今後の方向性

**改善・見直し**

### 【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)  
糖尿病重症化予防事業として、集団ではなく個別指導を行う。  
特定健診から対象者（ヘモグロビンA1C 6.5以上で医療機関にかかっていない人）を絞り、個別に健康相談を行い、日常生活における実行可能な栄養・運動の具体的な行動目標を設定し、本人が自発的、継続的に取り組めるように保健師、栄養士、健康運動指導士による支援を行う。  
参加者の体力（意欲）に合わせたプログラム構成の教室を開催する。  
・毎日コツコツ健康づくり教室  
日頃、運動習慣のない人を対象に、無理なく体を動かす習慣をつけることができることを目的とした教室  
・しっかり運動教室  
しっかり体を動かし、運動の効果を学びたい人向けに、筋力トレーニングなども取り入れる